

令和5年2月17日

長与町議会 議長 山口 憲一郎 様

議会運営委員会
委員長 岩永 政則

委員会調査報告書

令和4年10月11日派遣承認された調査事件について、会議規則第77条の規定により報告します。

- 1 調査日 令和4年10月19日（水）～21日（金）
- 2 調査場所および調査事件（所管事務調査）
 - 19日 : 大阪府箕面市議会（議会のICT化について）
 - (1) ICT推進事業運用業務の目的とその狙いについて
 - (2) 導入したICTシステム（グループウェア）の概要について
 - (3) 予算措置（財政当局との調整）について
 - (4) タブレット端末導入によるペーパーレス化とそれに対する議員の反応について
 - (5) タブレット端末の研修会について
 - (6) ICTシステム導入の効果、メリット、デメリットなど
 - 20日 : 大阪府河南町議会（議会におけるICT化の推進について）
 - (1) 導入したICTシステムの概要について
 - (2) 導入に至った経緯について（目的や期待する効果等）
 - (3) 予算措置について（財政当局との調整・国等補助金・交付金の活用等）
 - (4) タブレット端末導入によるペーパーレス化とそれに対する議員の反応
 - (5) タブレット使用基準について（内容及び策定にあたっての課題等）
 - (6) 議場内傍聴者用モニターについて
 - (7) ICTシステム導入の効果、メリット、デメリット等
 - 21日 : 大阪府熊取町議会（議会におけるタブレット端末の活用について）
 - (1) 予算措置について（財政当局との調整・国等補助金・交付金の活用等）
 - (2) タブレット端末導入によるペーパーレス化とそれに対する議員の反応
 - (3) タブレット端末使用基準の要綱等について（内容及び策定にあたっての課題等）
 - (4) タブレット端末導入の効果、メリット、デメリットなど
 - (5) タブレット端末を活用した議会防災訓練について

3 派遣委員

岩永政則・河野龍二・金子恵・堤理志・西岡克之（委員外委員）
浦川圭一副委員長（都合により欠席）

4 概要と所見

【委員長 岩永 政則】

* 19日 大阪府箕面市議会

（1）市の概要

人口は約136,000人、世帯は約61,000世帯。

面積は47.9平方キロメートルで長与町の約2倍弱。

議員数は23名。事務局職員は11名で職員一人当たりの議員数は約2人。

長与町議会は4人。

（2）調査事項：議会のICT化について

平成29年 → 検討開始、平成30年 → 議長のタブレット導入と検証

令和元年1月・3月 操作研修会を実施

令和元年4月 → タブレット端末導入を決定

同年8月 → タブレット端末を導入

（所見）

*タブレット端末は購入の方式をとっていた。30台購入。

*導入経費は端末費 3,795千円 1台約126千円。

*議会事務局でのペーパーは33万枚削減されたとのこと

*タブレットの議員への貸し出しは常時しているとのこと。（貸与にあたり規程を定めていた）

*画面は大きなものとした。（見やすいこと）

*タブレットは購入しているために、4年目を迎え更新費用がでてくる。その費用の捻出が必要となる。

本町議会では、既にタブレットの活用をしているが、導入にあたっての隘路は、機器の操作と画面の見やすさ（大きさに関係）であるが、当市は大きな画面を導入していたために、非常に見やすかった。少なくともA3の画面が必要と思われた。

導入の経費は、5年後の更新費用も念頭に、リースか購入かの選択は慎重な判断が必要である。

* 20日 大阪府河南町議会

（1）市の概要

人口は約15,000人、世帯は約6,700世帯。面積は約25平方キロメートルで本町とあまり変わらない。

（2）調査事項：議会におけるICT化の推進についてタブレットの導入から2年目である。

今回の研修にあたり、タブレットを活用し説明から操作まで終始行われた。

（所見）

*タブレットの議員への貸与は、常時貸与している。（貸与に関する要綱を策定していた）

タブレットの導入経費は、総計 510 万円・・・32 台分（財源は臨時交付金を活用）

*維持管理費は686千円

*紙がほしいとの声もある。

箕面市の所見でも記しているように、導入の隘路は機器の操作と画面の大きさである。

機器の操作にあたって

①【議員】 → 【機器の操作・判断】

②【職員又は自動】 → 【機器の操作】 → 【議員 →画面を見て判断するのみ】

全くの素人の私から①を②のように操作できないかと質問してみたところ、②を可能とするシステムにしているとの事であった。

このようなシステムを組み込むことができるならば、本町においてもすぐにでも導入は可能であると思われる。是非このシステムをセットした機器の導入が望まれる。

* 21日 大阪府熊取町議会

(1) 町の概要

人口は約40,000人、世帯は約18,500世帯。面積は約17平方キロメートルで大阪市内まで鉄道で約30分。

(2) 調査事項：議会におけるタブレット端末の活用について

令和元年9月定例会・・・特別委員会設置・・・行政視察

令和2年1月・・・ペーパーレス議会システム説明会（操作説明）

同年2月・・・特別委員会でタブレット端末の導入を決定

令和2年度・・・システム導入

(所 見)

*タブレットは常時貸与している。（端末機使用基準を制定）

*財源は全額一般財源で措置。

*導入によるデメリットはあまりなくメリットが大きいとのこと。

メリットの主なものは、ペーパーによる労務の削減、用紙が不要など。

*導入費用は、議員13人分と職員4人分で、レンタル費用他60万円・ランニングコスト年間230万円。

今後の検討事項として、システムの活用法と毎年度のコストの必要、タブレット端末とペーパーレスシステムの更新が必要であること。職員の人事異動もあり議員も改選がある。その後もうまく活用できるよう考えておくこととの教授があった。

システム導入は、今と今後を十分念頭に置いて判断が必要であると思われる。

【委員 河野 龍二】

(1) 大阪府箕面市議会

○議会のICT化について

ICT化・タブレット導入の経緯

H30年4月タブレット導入と目標を整理、先行してグループウェア導入の検討開始

R1年4月グループウェア導入（各自のタブレット・PCへ）タブレット導入を決定

R1年6月補正予算可決。8月タブレット導入。

目的

ICT化の導入効果的にするためペーパーレス化を進めていく

機種・使用ソフトウェア・費用

SurfaceProAdvanced LED 通信量 1G/月 サイボウズ導入 30 台購入
購入費用、ライセンス使用料Wi-Fi 設備費用などを含め 初期費用約 670 万円
R1 度末に資産管理ソフト導入に 440 千円、使用料 1000 円/月
ランニングコストは月額 1 万円ぐらい

使用基準

基本的に議員の個人活動にも制限はない。アプリケーションをダウンロードする場合に議長の許可が必要などの規定がある。

効果等

1 年間は紙との併用で対応していたようだが、令和 2 年 6 月議会から完全ペーパーレス化。ただし、各自が必要な紙資料は各自で印刷して利用は可能。

ペーパーレス化の効果は 33 万枚が削減された。また職員の印刷業務や会議予定の通知などの作業が減少された。

基本条例を改正して、災害時や感染症などで登庁できない場合での対応がタブレットで解消される。今後は委員会でも活用を検討している。

所感

箕面市議会は、まずはグループウェアを導入し、その後タブレット導入となっている。

グループウェアは会議の通知や遠隔会議の参加などが可能になるが、各自が機種を準備する必要があり、そのことは各議員に強制できない。タブレット導入経緯はその理由だと推測される。

現状では、一部の議員は一般質問などを紙ベースで行っていると説明をうけた。

操作方法は議案を PDF 化し、各自のタブレットにダウンロードをして活用する方法で、議案説明時に操作に慣れないと追いつけない場合があるように感じた。

機種は画面が大きく、議案書を見るにも問題がないと感じた。

(2) 大阪府河南町議会

○議会における ICT の推進について

ICT 化・タブレット導入経緯

議会の会議システム（議事録作成などの業務）と一括して ICT 化・タブレット導入を検討
R2 年 6 月から検討を始め、R3 年 6 月から導入

目的

資料のペーパーレス化、印刷業務の削減。コロナ禍での議会の対応など

機種・使用ソフトウェア・費用

iPadPro エコミーティング 議員 10 台・職員 2 台・理事者 20 台
交付金を活用。12 台で議会費 170 万円。 20 台は町費用 280 万円で購入。
その他費用を含め総額 510 万円が初期費用。
ランニングコストは利用料が約 70 万円/年間

使用基準

私的活用と公的活用の区別がつかないので、利用については特に制限はないが、フリーの W

Wi-Fiにはつながらない事は禁止事項にある。

使用規定を作成し、アプリケーションのダウンロードは議長の許可制となっていた。

効果

経費の削減は効果があるとの説明。会議通知の負担が削減された。

画面が小さく見えにくいとの問題もあるが、画面を大きくすることが可能なので問題ないとのこと。

リモート会議が可能となった。

所感

河南町議会の場合は、会議システムとセットでタブレットやソフトウェアの選択がされている。(株)会議録研究所の議事録作成も含め検討されているので、その選択が良いのかは疑問が残る。会議システムでは議場に傍聴者用にモニターを2台設置している。

費用の面ではセットでの導入で低く抑えられている事も考えられる。

議案の説明では、ナビシステムと表現されていたが、説明者がおこなう議案内容が、会議に参加している全員の画面に表示できるので、特に操作に遅れることはない。

完全ペーパーレス化で、研修内容も紙の資料がなくすべて筆記しての作業だった。

(3) 大阪府熊取町議会

○議会におけるタブレット端末の活用について

導入経緯

R1年9月に議会改革検討特別委員会を設置し、タブレット導入も検討内容として調査

R2年2月に全会一致でタブレット導入を決定

目的

議会のペーパーレス化に活用。会議資料、会議通知、会議録や行政計画。

資料の修正などもデータの差し替えが可能。会議に必要な情報の収集もタブレットで可能。

災害時や平常時でも議員間や事務局との連絡がスムーズ(LINEWORKS)。会議の日程調整や出欠確認も手軽にできる。

機種・使用ソフトウェア・費用

iPadPro12.9 (docomo)1GB リース契約 SideBooks 17台 導入費用は60万円

ランニングコストは docomo 通信料等が6,468円/月×17台 年間約130万円

SideBooks 利用料82,500円/月 年間約100万円

レンタル費用は無料。

議場内にはWi-Fiはつながらない。

使用基準

端末機使用基準を制定。(他の自治体を参考)

公私の使用の範囲は制限してない。フリーのWi-Fi接続禁止とアプリケーションのダウンロードは議長の許可制。

効果

ペーパーレス化での効果と、職員の業務の削減など大きな効果がある。

特にLINEWORKSの活用は、瞬時に連絡したい内容が遅れる。議会便り作成にも利用され、集まらなくても原稿の確認ができる。

所感

全国的にも実績がある SideBooks は使いやすいと感じた。説明があった LINEWORKS も便利な機能だと思った。

リース契約も低価格で、当初の導入費用は少なくてすむが、SideBooks 利用料は他のシステム利用料からすると高いと感じた。

SideBooks は共通画面が出せるなど、操作に不慣れでも十分対応できるし、各資料の保存方法などもすでに構築されているので安心して使えるシステムだと思った。

【委員 金子 恵】

	目的	端末・システム	予算等	活用・その他
箕面市	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化 ・議会資料閲覧 ・事務局負担軽減 (考えている以上の負担軽減につながった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Surface ・システム サイボウズ 	ランニングコスト <ul style="list-style-type: none"> ・プロバイダー 6千円/月 ・セキュリティソフト 1千円/月 ・グループウェア 500円/月 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイボウズの1年間の無料期間を利用し開始。これに合う端末が surface だったことから決定。 ・端末選定は住民に説明ができる価格(通信費込)であること。及び性能を考慮した。 ・画面が大きいことから、議案書比較、メモなど使用してみると問題点はなかった。
河南町	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化 ・リモート会議 ・印刷の手間を省く 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad pro ・エコミーティングクラウド (会議録研究所・エステック) ・Wi-Fi 対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用 議会：252千円 ・タブレット 議会10台、執行部20台、事務局2台 計 280万円 ・設定料 議会：47万円 	<ul style="list-style-type: none"> ・各人がアカウントを持っているため、サーバー書込みが可能になっている。 ・Wi-Fi ⇒ 議場・自宅にて接続 フリーWi-Fiには繋がらない。 ・メリット：印刷、情報共有、効率化、人件費 ・デメリット：2画面にすると見にくい。
熊取町	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化 ・議会機能強化 ・効率的な議事運営など議会改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ化されたシステム ・プロポーザルで端末は docomo、システムは sidebooks しか手を挙げなかった。 ・タブレット iPad pro ・システム sidebooks Wi-Fi・cellular 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入：60万円 docomo 初期設定 Apple ペン Sidebooks 初期設定講習 ランニングコスト 230万円/年間 docomo 通信・運営量 130万円 sidebooks 利用料 100万円 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット レンタル(タブレット代金は無し) ・ペーパーレス化⇒併用期間は取らなかった。 ・cellular モデルは議員の地域活動を考慮した。 ・各種資料、会議通知、執行部からの案内、提供資料 ・会議録、行政計画などを sidebooks に保管 ・メモ機能 ・データ差し替えが可能 ・情報収集(端末での web 検索) ・連絡方法：LINEWORKS を導入(日程調整等も可能)

《 所 感 》

3か所での研修において、使用端末の決定方法、システム導入の経緯など、それぞれだったため今後進めていくうえで参考になるものになった。

各議会、年齢等に関わらず端末を使うことで慣れていく。と言われていた。できない理由を考えている議会はどこもなかったことは、今、議会に求められる改革の一環であると感じた。

端末選定にも様々な手法があるため、参考にすることで早期導入は十分可能であることも確認できた。熊取町は令和元年11月に特別委員会を立ち上げ、翌年2年2月には導入決定している。このスピード感は全てにおいて、見習うべきと感じた。

導入は早くても次年度当初から可能であると見ている。現在、貸与されているタブレットでは画面の大きさ的にも十分活用できないため、今後、議会で利用するための最適な大きさ、性能を考え進めていけたらと考えている。

【委員 堤 理志】

○箕面市議会が採用しているシステムの概要

グループウェアは議会の予定、相互連絡、議案の格納など、一元的に管理され、利便性の高さが印象的であった。

デメリットはさして感じなかった。

箕面市議会が採用したグループウェアは、サーフェイスプロ（非 iPad）と相性が良いとの事であった。したがってグループウェアを考慮する際はハードウェアとの相性を確認する必要がある。

○河南町議会が採用しているシステムの概要

クラウド上に議案を格納し利用することに特化したシステムであった（エコミーティングクラウド）。

パネルへのタッチ操作した際の画面の反応がワンテンポ遅れると感じた。

ハードウェアは iPad Pro13 インチであった。

○熊取町議会が採用しているシステムの概要

サイドブッククラウドとラインワークスとの連携で議案の格納と活用、議会と事務局との連絡、連携がスムーズにできている印象。

ハードウェアは旧世代（ボタン付き）の iPad Pro13 インチであった。

○所感と今後留意すべきと思う事項

- ・議案の視認性を確保するため、画面の大きさは最低 13 インチ程度必要。
- ・ソフトウェアの操作性は、極力複雑でないものがよい。
- ・議場、委員会室への Wi-Fi の設置は必須である。
- ・セルラー対応（携帯電話の電波）の機種は割高になる。外出先で利用できる利点はあるが、どの程度利用があるだろうか。セルラー対応が本当に必要か検討の余地がある。
- ・取り扱いの規則（要綱、要領）を制定する必要がある。（先進地の規則を参照し策定できる）
- ・導入にあたっては、議会がめざす目的と効果。費用について広報などを通じ住民への説明責

任を果たす必要があると考える。

- ・ウイルスや不具合への対策として、ソフトウェアやアプリケーションのアップデートが促される。その際、各自で実行することを規則に明記するべきではないか。
- ・タブレット導入が議会事務局への過度な負担とならないよう留意する。
- ・すべての議員が取り扱うことができるようにすることを前提とすべきである。そのために、端末操作についてサポーター制（議員数人と事務局で構成）を導入してはどうか。
- ・コストについて、価格の単純比較では見えない部分もあると思われる。行政当局、議会事務局の負担軽減により、空いた時間を他の業務に回すことができるので、この点もコスト算定において考慮してよいと考える。
- ・議案審査を紙媒体からデジタル化へ移行することは不安材料であるが、同じ不安は視察先でも出されていた。これは実行に移すことで操作に慣れ、不安は解消されていくということが視察先から共通して出された。

【委員外議員 西岡克之】

タブレットを議会に導入するために、今回大阪を中心に三ヶ所の自治体視察に行ったのだが、箕面市、河南町、熊取町それぞれに導入の事情、特徴があり興味深くレクチャーを受けさせてもらった。機種についてはリース、買い取りなど様々で、ソフトウェアとの絡みがあり、本町でも検討が必要だと思う。

導入に伴い、規則（基準）の作成も必要になるので、特別委員会を作り作成するのか、議会運営委員会で作成するのか、決めなければならないと感じた。次にソフトウェアは何を導入するのか、これはある程度議会運営委員会で方向性を示すか、特別委員会で協議して、全員協議会に理由を付けて提案しなければ決定しにくいと思う。

ハードに関しては、画面が大きく紙ベースで A4 サイズ位の画面が比較的良いと感じた。説明でも A4 サイズなら、見開き A3 の画面にしても問題ないようだった。操作などは、議員の中で誰か得意なひとが自然と説明するか、業者が絡めばレクチャーを受けられると感じた。

なにぶん様々な課題が多いので、全会一致での導入はハードルが高く難しいと感じる。

また、いきなり紙を無くしてタブレットだけにするのか、一定期間紙とタブレットと併用するのか、決めなければならない。仕様のサポートをどうするのかなど、まだまだ解決しなければならない課題が、たくさんあるように思える。